



主の祝祭「クリスマス」の恵みを味わうために

皆さんの一年はいつから始まりますか？

教会の暦は、降誕節（クリスマス）→復活節（イースター）→聖霊降臨節（ペンテコステ）へと進みます。

旧・新約聖書を通して主なる神による人間の救いのご計画とその御働きに感謝をもって祝いつつ、その恵みを味わいながら一年を過ごします。

12月25日のクリスマスに先だつ4週間を「待降節」と呼びますが、より主のご降誕の恵みを深めるため、クリスマスの9週前から、降誕前第9主日と数え始め、一つずつ減らしていきます。

一般的なのは、クリスマスに先だつ4週間をいう「待降節」ではありますが、これと一緒によく使われるのは「アドベント」という言葉です。それはラテン語で‘だんだん近づく、到来’を意味します。教会ではこの期間、「アドベント・クランツ」の4本のロウソクに週毎1本ずつ火を灯しながら「闇の中の光」である主イエス・キリストが来られるご降誕を待ち望むことの意味を味わいながら過ごします。

志村栄光教会では9月、1回目の「クリスマス準備会」で例年とおりの当年のクリスマスのテーマとシンボルについて話し合いました。その結果、「光り」をテーマとし、「星」をシンボルとすることとなりました。

混沌とした世界、ますます闇に覆われ、陰へと追われる一人一人に、上よりの光（癒し・救い・力・赦し）が照らされますようにとの祈りを込めて「光り」としました。「光」ではなく、敢えて「光り」とさせていただきました。静止のイメージではなく、今もなお照らし続けている主なる神の御働きの感じられたらと願ってのことです。そして、「星」は「導き」のイメージでもあります。世に來られた主イエス・キリストへ導く星。星に導かれた東方の博士たち—異邦人で、自国では高貴な人たちでありながらも他者の基準（律法）によって汚れとされ、蔑まれた人たち—を思い巡らす時も神の御働きの感じる事が出来ます。

皆さまがクリスマスの光り、クリスマスの恵みへの星の導きによって真の平安に満たされますよう願っております。

2025年11月30日 第一アドベント





「公現日(エピファニー)」について

キリストの人類への顕現の秘儀を祝う日で、1月6日に祝われます。顕現日とも言い、公現祭とも言います。エピファニーはギリシア語で「現れること」や「顕かにすること」という意味を持ちます。2~3世紀から、この日にキリストの降誕、洗礼、カナの婚礼などを記念するようになりました。それは、イエス・キリストの公生涯が洗礼から始まり(マタイ3章等)、

人々になされた初めてのしるしが「カナの婚礼」(ヨハネによる福音書2章参照)だったからであります。4世紀以降、12月25日に主の降誕を祝うことが定着し、1月6日には全世界に対するキリストの顕現を記念する日とし、イエス・キリストの洗礼とともに東方の博士たちの礼拝(マタイによる福音書2:1-12)を記念することが一般的となりました。驚く人もいると思いますが12月25日はイエス・キリストの誕生日ではありません。誕生を記念して祝う日であります。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3:16)この一節を思い出すと、クリスマスは博士たちの礼拝をもって全体的に祝ったと言えるのではないのでしょうか。12月25日でクリスマスが終わるのではなく、1月6日までをクリスマスとして祝うことは意義があります。1月6日が祝日ではない日本のような国では、その前後の日曜日に移して祝われることがあります。呼び方、意味合い、祝い方に東方教会(正教会)と西方教会で違いがあります。又、西方教会の中でも違いがあります。日本キリスト教団の多くの教会では暦として覚えるくらいで特別にお祝いなどは行っていないです。

Merry
Christmas 2025



- ★ 11月30日(日) アドベント第1主日礼拝 午前10時30分
- ★ 12月 7日(日) アドベント第2主日礼拝 午前10時30分
- ★ クリスマス子ども会 午後1時~3時00分
- ★ 12月14日(日) アドベント第3主日礼拝 午前10時30分
- ★ 12月21日(日) アドベント第4主日礼拝 午前10時30分
- ★ クリスマス礼拝、聖餐式、祝会
- ★ 12月24日(水) クリスマス・イブ キャンドルサービス 午後7時
- ★ 12月25日(木) クリスマスおめでとうございます!
- ★ 2026年1月1日(木) 元旦礼拝 午前11時
- ★ 2026年1月6日(火) 公現日